

## 事務事業評価表（一般事業）

評価対象年度	平成 25 年度
1次評価日（主幹等）	26年 3月 31日
2次評価日（課長等）	26年 6月 2日

1 事業名	スケートのまちづくり事業	コード	113305
-------	--------------	-----	--------

2 担当部課	部等 教育部	課等 スポーツ振興課	作成者 伊藤 雅章
--------	--------	------------	-----------

3 事業概要	目的体系	基本目標	生涯を通じて学び、豊かな心を育むまち		
		政 策	文化・スポーツの振興	施 策	スポーツの振興
		予算科目	スケートのまちづくり事業費	業務委託	なし（直営）
		実施義務	なし（選択的事業）	国県補助	なし
		根拠法令	スポーツ基本法第4条・第7条・第22条		

## ●事業の内容（D0）

4 事業の概要等	*対象者（誰のため）、意図（どのような状態にしたいのか）		
事業の概要 （簡潔に）	アイスアリーナ等のスケート施設を活用し、多くの市民にスケートに触れ、体験してもらうため、スケート教室、ファミリースケートデー等を実施する。		
目的	対象者	市民	
	意 図	市民スポーツの振興を図る。	

5 事業の実施内容	*25年度に、いつ・どこで・誰が・何を・どのように行ったか、という具体的な内容		
下記の大会等の開催や支援を行った。			
【大会】 ・チャレンジカップショートトラックスピードスケート選手権やまびこ大会（9/29・92名）、岡谷市長杯争奪長野県ジュニアアイスホッケー大会（10/19・20・120名）、やまびこカップスピードスケート競技会（12/1・372名）、国体冬季大会スピードスケート競技会長野県予選会（12/22・53名）、市民スケート大会（1/13・43名）、諏訪地方スケート大会（2/11・309名）、初心者記録会（2/16・60名）、長野県ジュニアショートトラックスピードスケート選手権岡谷大会（3/2・40名）、市民カーリング大会（3/9・50名）			
【教室】 親子スケート教室（12/1・97名）、陸上～氷上スケート教室（7月～2月・1,352名）、スピードスケート教室（9月～10月・91名）、アスリートサポート（6月～2月・540名）、フィギュアスケート教室（10月～11月・129名）、アイスホッケー教室（9月～11月・100名）、カーリング教室（11月～2月・44名）			
【ファミリースケートデー】 アイスアリーナ（11月～2月・4回・476名）、やまびこ国際スケートセンター（12月～2月・3回・487名）			
【アイスショー】 アイスショー&発表会（4/21・400名）			
前年度の課題への対応	スケート教室の内容について見直しを行うとともに、カーリング教室については委託に切り替え実施した。		

6 指標の達成状況	*活動指標：この事業の規模、成果指標：この事業によって得られる住民の満足度			
区 分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 活動指標（指標名）	大会等開催数			単位 回
	実績値	24	24	24
	*指標の説明	大会・教室・ファミリースケートデーの開催数		
② 成果指標（指標名）	大会等参加者数			単位 人
	目標値	6,462	6,462	6,462
	実績値	4,903	5,309	4,855
	達成度	75.9%	82.2%	75.1%
	*指標の説明	大会・教室・ファミリースケートデーの参加者数		
	*目標値の設定方法の説明	過去3年間における実績の最大値		

7 ア) コストの推移

\* この事業にかかる費用（人件費は、1人あたり年間800万円で換算）

[単位：円]

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
① 直接事業費	4,560,794	5,793,578	5,617,343	4,169,000
経常経費	4,560,794	5,793,578	5,617,343	4,169,000
臨時的経費	0	0		
* 臨時的経費の説明				

区分	23年度	24年度	25年度	26年度(見込み)
② 人件費	3,600,000	3,600,000	3,600,000	3,600,000
正規職員の人数(人)	0.45	0.45	0.45	0.45
③ 合計コスト(①+②)	8,160,794	9,393,578	9,217,343	7,769,000
前年度比		115.1%	98.1%	84.3%
財源				
一般財源	7,817,794	8,941,078	8,832,343	7,273,000
内訳 特定財源	343,000	452,500	385,000	496,000
* 特定財源の説明				
④ 活動一単位あたりコスト	340,033	391,399	384,056	
前年度比		115.1%	98.1%	
⑤ コストに関する補足説明				

イ) 補助金負担金の状況

[単位：件、円、%]

補助金負担金名		23年度	24年度	25年度	26年度(予算)
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
	件数				
	金額				
ア)の①に含まれる負担金等合計金額及び割合	合計金額	0	0	0	0
	割合	0.00%	0.00%	0.00%	0.00%

\* 行が足りない場合は追加してください

●事業の評価(CHECK)

8 妥当性評価

\* 妥当性=行政がこの事業を行う必要性はあるか。

妥当性

高い

評価項目	はい	いいえ
① 現時点で、税金を投入して積極的に関与すべき重要な分野である。	1	
② 民間(企業、NPO、市民団体等)へ委ねることが難しく、市が行う必要がある。	1	
③ 民間(企業、NPO、市民団体等)が行うサービスと類似・競合していない。	1	
④ 国・県の事業、市が行っている他の事業と類似・重複していない。	1	
⑤ この事業の効果は広く市民に還元され、特定者の利益にはなっていない。	1	

9 有効性評価

\* 有効性=成果指標(項目7/住民の満足度)は向上しているか。

有効性

標準

評価項目	はい	いいえ
① この事業が属する施策において、この事業の優先度が高い。	1	
② 社会情勢の変化や市民ニーズを把握し、今年度の事業内容に反映した。	1	
③ この事業の目的を達成する上で、現在の方法が最も効果的で低コストである。	1	
④ この事業の利用者が増加した。	成果指標の実績値 前年度比 91.4%	0
⑤ 年度当初に期待した成果が得られた。	成果指標の目標値 達成度 75.1%	0

●改善の内容 (ACTION)

10 具体的な課題と改善

課題	(少ない費用で効率的に事業を行い、市民サービスを向上させる上で、現在課題になっていること) スケート人口等の底辺の拡大を図るとともに、競技人口の拡大及び競技力の向上が課題である。	
	改善方法	(上記の課題をふまえて26年度以降に実施する、具体的な改善の内容) アイスショーについては廃止し、ファミリースケートデー・多種目スケート教室については、内容等の見直しを行うとともに、スケートトレーニング（陸上～氷上）については、定員を増やして実施する。
改善開始時期		平成26年4月

●次年度の計画 (PLAN)

11 次年度の方針	継続して実施	12 施策評価による26年度の優先度 *H24年度施策評価表より転記すること	B
-----------	--------	---	---